

市民は、今も・野坂市政に満足をしていますか？

市長の姿勢と、マニフェスト点検&課題に迫る！

米子市政は、来年四月の市長選挙を睨んで、現職の再出馬はあるのか。片や、対抗馬の「新人」発掘の動きに、市民の関心が広がっている。

市長は、マニフェストの自己採点を七三%とし、概ね順調に進捗と、高目の評価をしている。

市長の自己採点と、市民の市政満足度に乖離はないか。

市民目線から、野坂市政の隠れた姿勢と課題を覗く。

その1

借地料・ムタ使い！

市長は、借地料を市財政のアキレス腱と自認しつつ、平成二十二年までの五年間で、五一〇〇万円の減額に努めたと評価。

一方、この五年間で、契約額と市基準額の差額を、四億二千万円も支払っている。

又、不動産鑑定評価の市庁舎契約は、〇八年の不動産鑑定賃料を、一四年度の契約に先送りした。

この結果、六年間の土地評価の下落などで一億二千万円余が過払いの見込み。これ、減額？

市長は、借地料は契約自由の原則に基づいて、適正との姿勢だ。

一方、公金の支出は、社会の合理性が伴うという判例がある。

その2

公会堂・存続！ 美術館・図書館・増改築！

公会堂は、耐震補強工事で休館中。巷に、寂然としない不満と不信感が飛び交っている。

市長は、公会堂の判断に、小額の経費は「存続」。耐震の巨額で「廃止」。幾万の陳情に「保存」と、大きく軸がぶれた。

「行革方針」に、重複施設の見直しを掲げたが、耐用の短い「保存」に十五億三千万円の巨額な市民の税金を投入。

美術館、図書館の増改築も、十億円を投入。「施設の充足感が、満たされるのか。」と、費用対効果の疑念が渦巻く。

市長の、使命感と説明責任に欠けたポピュリズムだ。

借地料は、いつまでですか。
市長、「まだ、25年は使えます」



その4 遅すぎた春&中学校給食！

中学校給食は、マニフェストのどこにも載っていない。唐突な「計画」表明に、「市長選の票集めか。」と、揶揄される。

「財政の見通し」に、どんな「神風」が吹いたのかと質しても、答えがない。

「事業」に、財政理念のない計画と不均等・不均一なサービスの献立が見える。

志清く



その3 隠れ・借金、48.3億円！

米子開発・土地公社の裏起債と称される借金は、10年度決算で48.3億円ある。

内、土地公社の32億円の9.5億円に疑念広がる。市は、03年～04年に市有地11件を公社に抱かせ、9.5億円の借金を負わせ、市の資金繰りに使っている。

市長は、この説明責任を果たしていない。

その5

赤字、消えた・行革？

「月収四〇万円の家計が、翌月から三〇万円の減収になった。支出を節約せず、五ヶ月経ったら五〇万円の赤字が膨らんだ。」

これが、「市が、数十億円の赤字になる。」と、ゴミ有料化等の材料に悪用した市長のシナリオだ。

一種、市民への脅しだ。支出を削減すれば、赤字にならない。当然の結果を、声高に叫ぶ。

下水道料金、一軒4000万円の不納欠損。「責任は、部課だ。」

土地公社に、借金で市有地を抱かせ。土地下落で、穴埋めに税金を投入。これ、行政改革の劣化だ。

その6

企業誘致&崎津・流通団地

崎津団地は、知事先導の太陽光発電に、舟券売場の進出計画。

塩付け借金34億円。企業誘致の税収効果を、20年間で約15億円と推定。借金の20億円を流

失か。貧すれば鈍する。足元を見られた政商の付けは重い。

流通団地の企業進出率は、7

9.6%。大半を定期借地契約。借金30億円は、市民税で肩代

わり。契約満期後の分譲価格によつては、借金が膨らむ。